

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

カンキツにおけるミカンハダニの発生状況（技術情報第15号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

2月のミカンハダニの発生量が平年に比べて多い状況です。今後の気温上昇に伴い、
春期に多発生する恐れがありますので、発芽前のマシン油乳剤散布を徹底し、ミカンハ
ダニの初期密度を抑制しましょう。

1 発生状況等

- (1) 県内各地のカンキツ園で2月上旬から中旬に実施した巡回調査において、ミカンハダニ雌成虫の寄生葉率は13.3%（平年2.4%、前年13.7%）、10葉当たりの寄生頭数は3.7頭（平年0.7頭、前年5.2頭）であり、寄生葉率・10葉当たりの寄生頭数ともに、過去10年のうち、注意報を発出した令和2年に次いで多かった（図1、2）。
- (2) 本年度において、1月中旬から2月中旬にかけて気温が平年より高く、また、12月から1月にかけて降水量が平年より少なかったことは、本害虫の増殖にとって平年に比べて好適な気象条件であった（図3、4）。また、福岡管区气象台が2月25日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いもしくは平年並の予想であり、今後も増殖が助長される気象条件が継続することから、多発生することが予想される。

2 防除対策等

本害虫の春期の多発生は、新葉の加害による光合成機能の低下を引き起こす。今後の気温上昇により本害虫の増殖が促進し、春期の発生が多くなると予想されることから、以下の防除対策を行う。

- (1) 発芽前のマシン油乳剤散布により初期密度を抑制する。散布の際は、樹全体にムラなくかかるよう丁寧に散布する。なお、樹勢が弱い樹では旧葉の落葉が助長される場合があるため、樹勢に考慮して使用する。
- (2) 本年は1月中旬以降平年より気温が高い傾向にあることから、カンキツの発芽期が早まる可能性がある。発芽後にマシン油乳剤を高濃度で散布すると薬害を生じる恐れがあるので、生育状況に注意し、発芽前に散布を行う。
- (3) マシン油乳剤は商品によって使用時期や希釈倍数などが異なる場合があるため、ラベルをよく確認し、農薬登録内容を遵守して使用する。

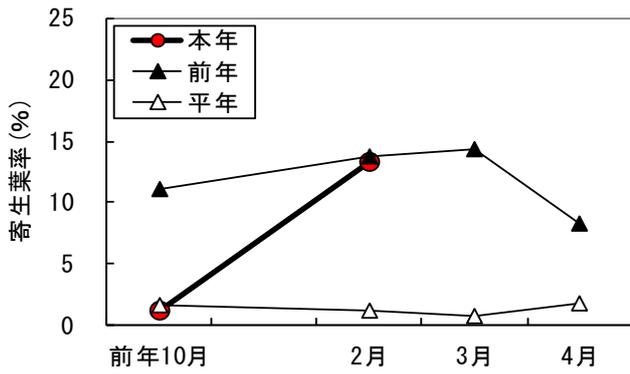


図1 ミカンハダニの寄生葉率の推移

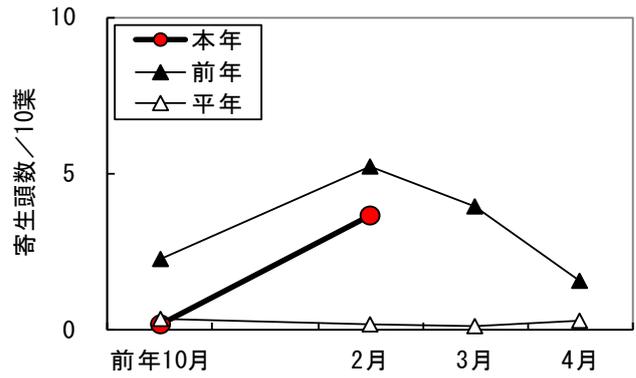


図2 ミカンハダニの寄生頭数の推移

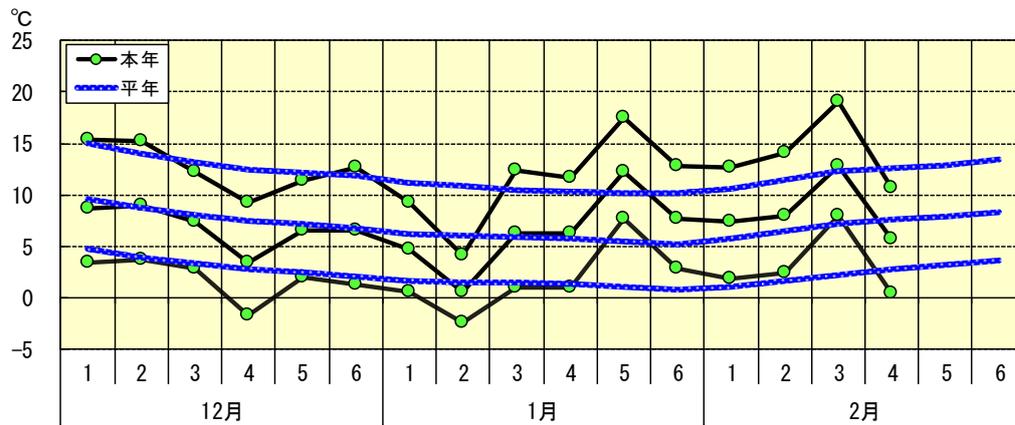


図3 熊本市の気温の推移 (平均・最高・最低)

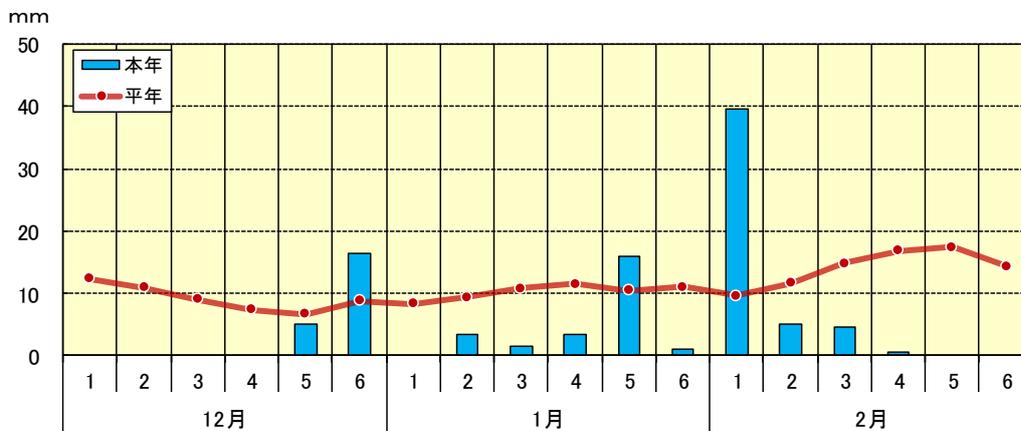


図4 降水量

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係)
 担当：中村、丹 TEL 096-248-6490